



いっしょにする！なんとかする！自分発でもくらしー！

県ネット通信

埼玉県市民ネットワーク
共同代表 大野洋子 山田裕子

〒336-0031

さいたま市南区鹿手袋 1-5-3 ひゅうまんポスト内

MAIL saitamaken.shimin.network@gmail.com

URL <http://saitamaken-shimin.net/>

2017年1月発行 52号

新しい2つのネットの誕生と活躍！！

2013年以来埼玉県市民ネットワークは新しいネットを立ち上げることに最大の力を注いできました。そして昨年1月には新しくできた「よしかわ市民ネットワーク」に代理人が誕生し、さらに8月には羽生市に準備ネットが生まれました。その様子を紹介します。

羽生に準備ネット誕生！

今年8月に羽生に準備ネットが誕生しました！10名からのスタートです。

熊谷ブロックでの代理人運動学習会をきっかけに生まれたものです。「もっと詳しい話を羽生で聞きたい」という要請があり県ネットから説明に伺いました。写真はその時の光景です。子ども連れの若いお母さんや小学生のお母さん、そして孫のいる世代の方など、多世代のバランスの取れたネットです。自然体でやわらかい雰囲気が素敵です。



当日の参加者の感想の一部を紹介します。

「代理人運動のよさがよくわかりました。仲間を増やす活動をしていきたいです。」

「ネットを立ち上げるのはとてもとてもむずかしいと思っていました。けれどもみんなが知恵を出し合って一人に任せないで楽しくすれば意外と簡単にできるのだな～と思いました。市民の声を議会に伝えるには有効なやり方だと思います。」

「ひと任せにしないで自分たちで提案して調べることで、政治が身近になっていく。そうやって仲間が増えればいいのでは…。」

羽生市議会は今現在14名の議員の全員が男性です。そんな議会にネットの代理人が誕生し、女性の声・生活の声をストレートに届けられる日が楽しみです。2年後の挑戦になります。

よしかわネットに代理人誕生、さっそく石けんで成果！

昨年1月には、新しいよしかわネットに代理人が生まれました。環境問題などで活動を続けていた岩田京子です。

設立して半年で迎えたよしかわネットの選挙は大変でした。例年になく市民運動家の候補者がたくさん出馬して競争が激しくなったからです。結果はなんと市民派全員が当選！20名の議員のうち、9名が市民派で最大会派を構成。女性は7名全員が当選し議員の35%を女性が占めるなど吉川市議会はずっかり様変わりしました。

昨年はみんなで水をテーマに取り組み、上水道、下水道施設の現地調査を行うなど精力的な活動を続け、6月議会には『家庭から排出される有害化学物質の削減及び啓発について』を提案し、市長から「自然・子どもを守るということは、地域の価値を上げること。前向きな意味での検討をする。」という答弁を引き出し、その結果公共施設での洗剤が有害な化学物質を含まない石けんに切り替わりつつあります。

30年くらい前から生活クラブの組合員活動で市長に『しゃぼん玉メッセージ』を依頼したりしながら市に働きかけてきましたが、具体化はされませんでした。それが岩田京子という代理人を持つことで、一気に事態が動いたのです。

また、最近、注目をされている香害に関しても質問し、早速市の全施設において、香料自粛のポスター掲示がされました。

よしかわネットはさらに次の提案に向けて動いています。



一般質問を行う岩田京子

「シャボン玉メッセージ」を依頼したりしながら市に働きかけてきましたが、具体化はされませんでした。それが岩田京子という代理人を持つことで、一気に事態が動いたのです。

また、最近、注目をされている香害に関しても質問し、早速市の全施設において、香料自粛のポスター掲示がされました。

よしかわネットはさらに次の提案に向けて動いています。

『ブランディングプロジェクト』始動！

埼玉県市民ネットワークの名前を、もっと広く知ってもらいたい！というみんなの想いから始まった、価値の見える化（ブランディング）プロジェクト。

県ネットの独自性や魅力が一目でわかるキャッチコピーやロゴマーク、機関誌など、他の政党と差別化できる広報のあり方を徹底的に見直そうということで、各地域ネットから集まったメンバーでプロジェクトを結成。越谷市の経営コンサルタント玉居子高敏氏を講師に招いて学習会を開催しました。

3回の会議を経て、おおまかなイメージをまとめました。イメージカラーは自然や環境、平和を連想させるグリーン。キャッチコピーは、「いっしょにする！なんとかする！自分発でもくらしー！」に決

定。ネットの独自性は、議員にお任せではなく、みんなで政治に参加してきたことにあると思います。また「自分発でもくらしー！」には、自分の小さくらしの課題を発信することが、大きな社会を変える一歩であるという想いを込めました。

これをもとに、さらにデザインを考え、みんなに愛されるロゴマークの作成に入ります。完成披露まで、今しばらくお待ちくださいね。



「ブランディング」学習会の様子

7 ネット活動報告 地域でがんばっています

地域協議会で運動の見える化!!

市民ネットワーク鶴ヶ島

鶴ヶ島では、これまでも生活クラブ、ワーカーズ、ネットの三者で協働してきましたが、地域協議会を立ち上げることで、運動の見える化をさらに進めています。

今年度は、メゾン8th アニバーサリーに地域協議会として「福祉」をテーマに参加しました。

夏休みに子どもたちと実施した「バリアフリー調査」のパネルも展示しました。調査のまとめを市に提案したら、さっそく一部改修工事がおこなわれました。

近くの小学校の振替休日に併せた、子どもは無料のカレーランチはスタッフのお子さんだけになってしまいました。また、検討したいと考えています。

フードドライブは3日間、メゾンでワーカーズが受け取りました。鶴ヶ島市ではまだ組織的なフードバンクの取り組みはありません。今回、私たちがフードドライブに取り組んだことで、貧困の問題を気にしている市民がいることを知らせることはできたと思います。ツール（道具）の違う三者での地域協議会で取り組んでみたら、協働する事の意義を実感できました。

「TCK ニュース（鶴ヶ島地域協議会ニュース）」を発行して活動を伝えていきます。また、お祭りに来る人たちとネットの情報交換「セイジのとびら」（わいわいサロン主催）は、議会の話もしながら私たちの活動を伝える場となっています。

<写真 シニアシミュレーション調査の様子>



参加者 102 名、高橋源一郎氏の講演会は好評 富士見ネットワーク

7月の参議院選挙後、野党共闘の勝利と自民党・与党の過半数の議席獲得の結果に落胆と無力感、かすかな希望にあります。

この結果を受け、若者に近いところにいた高橋さんの意見を聞きたい、あの若者たちは今、どう考えているのか、知りたいことは募るばかり。

今回の講演はイクメンのはしりだった高橋さんが保育・学校教育に感じたこと、文学者として取り組みが語られ「ひとつに凝り固まるのではなく、その時々で考えを変えていく」柔軟な姿勢を示された。

以前、出版された「民主主義ってなんだ」の続編「丘の上のパカ」の校正原稿を示され、ここに私たちの疑問への答えらしきものが示されているようです。

質疑の中で大学への国・文科省から学長の権限強化、教授会の決定を蔑ろにする動きが出てきており、大学への支援が細中でトップダウンが横行している話に危機感を感じました。

富士見ネットワークでは、初めての講演会の取り組みで3月の市議会選挙に向けて多くの市民からの意見など反響がありました。

<写真 講演会の様子>



野党共闘で市民と政党が連続シンポ 越谷市民ネットワーク

国民主権と立憲主義を破壊し、格差貧困を拡大させながらもなお高い支持率をはじき出す「アベ政治」とどう対峙していくのか。越谷ではその議論を地域で起こしていくことなどを目的に、「立憲主義から語るくらしと政治」というテーマで政党と市民による公開シンポジウムを連続開催しています。実行委員会は個人参加ですが、越谷ネットからも積極的に参加しています。

これまでは、安保法制や参院選における野党共闘などをテーマに民進党、共産党の国政選挙候補予定者、越谷市民ネットワークや無所属の市議、自宅で憲法カフェや選挙カフェを主催する母親など、多彩なメンバーがディスカッションしました。

昨年12月13日に開催されたシンポジウムのパートIIIでは、ベストセラーとなった『下流老人』の著者でNPO法人ほっとプラス代表理事、越谷市在住の藤田孝典さんをお招きして「貧困の連鎖を断ち切るために」と題して、社会保障分野などの「くらしのテーマでの共闘」を模索する試みを行いました。

安倍政権の下で、拡大する格差と増大する自己責任論を突破するための具体的な方法論として、貧困バッシングが吹き荒れるインターネット上の言論空間を制していくために、SNSの積極的活用などが提起されました。一方で、社会保障の財源を巡って消費税増税への見解などはパネリストの間でも見解が分かれました。

<写真 中央市民会館劇場でのシンポジウムパートIII>



子どもの居場所づくり

ネットワーク三芳

ネットワーク三芳で寺子屋構想が出てから早一年過ぎた。家庭で見る学習、学校での出来事やいろいろなつづやきの聞き役、お腹すいたーの声にお母さんがだすおやつ、そんなことなら人生経験豊富な自分たちにもできるかも。

12月6日（塾カフェひだまり）はまず一歩踏み出した。町の集会所を利用して週1回。集まった子供は1回目5人、2回目6人、3回目7人と少しずつ増えてスタッフは学習支援の勉強をしたり食事のメニューを考えたりで大忙しだ。私たち一人ひとは、小さいがいろいろな力を持っている。この先その力を効率よく有効に使っていくつもりだ。まずは子供たちとおしゃべりにたっぷり時間を使っていきたい。

<写真 塾カフェひだまりの様子>



新ゴミ処理施設に対する取り組み

生き生きネットワーク鴻巣

現在鴻巣で問題になっているのが、新ゴミ処理施設建設の計画（鴻巣行田北本）です。莫大な費用をかけ、大型の施設を洪水の危険のある場所に建設するという計画に、将来の不安しかありません。環境面も配慮されたコンパクトで長く使える施設建設を実現するため、私たちはゴミの分別、減量を徹底し、市にも働きかけています。しかし、代理人がいないため、全くとはいいいほど情報が入ってこないのが現状です。

目の前の功罪だけではなく、子や孫の世代が健やかに暮らせるまちづくりをしていきたいと思えます。

<写真 憲法カフェも開いています 生活クラブ鴻巣支部と共催>



議会のインターネット配信へ

まちネット寄居

寄居ネットが8年前から何度も要望、陳情してきた「本会議のインターネット配信」「常任委員会の公開」などがやっと動き出した。2016年6月議会へ提出した要望書の回答では、「予算措置も含めて進めて行きます」といった文言があった。それが今年の9月議会で、老朽化した音響設備等の改修などのために、補正予算措置が取られることとなった。わたしたちの要望がやっと実現されそう。当初、ある議員から「インターネット配信なんかすると、間違ったことが言えなくなる」などの発言があり驚かされたが、少しでも可視化されることで、各議員たちのレベルアップに繋がっていけばさらに有効な公費となる。常任委員会へも、過去数回傍聴を申し込んだが許可されなかった。その理由が「前例がない」。開かれた議会にしていきますと歴代の議長は言い続けていたのだが。12月議会で詳細が決まる。

<写真 2014年 ネットなど主催立会演説会の様子 75名参加>



フードバンクの受付をしています

市民ネットワーク所沢

食品ロスは、年間500～800万トン！日本のこめ生産量相当の数字です。

その一方で、格差社会が広がり、子どもの貧困、低所得高齢者、ワーキングプア…毎日の食べ物にも事欠く人が増えています。そんな現状を何とかしたいという思いで、安全に食べられるのに破棄される食料を、個人や企業から寄付していただき、支援を必要とする人・場所にお分けしています。以前は市議会で、何度も代理人が一般質問をしてもなかなか理解してもらえないこともありましたが、最近は理解が進み、いろいろ動きが出てきています。

毎月25日と、運営委員会のある第二月曜日は、荷受用の箱を事務所の外に出して、市民の皆さんからの寄付をいただき、集荷場所に運んでいます。

「この赤いぼりは、通りがかりにいつも見ていたけど、今日初めて伺いました。これでいいでしょうか」と、うどんやベビーフード、もらったお米を食べきれないからと運んでこられた方もいました。ネット通信を見て、遠方からもってきてくださる方もいて、輪が広がっていることを実感します。優しい人がいるのだなと頭が下がります。

これからも、フードバンクとこころざわに協力し生活困窮と食品ロスのない社会づくりに、取り組んでいきます。

<写真 会議を終えて事務所できつろぐネット会員>

